

キャラクター名  
火威恭也 (ひおどし きょうや)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー オルクス	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	小学生
オプション		年齢	見た目11歳	性別	男
覚醒	忘却	衝動	自傷	初期侵食率	33 %
出自	有名人	経験	失恋	邂逅	腐れ縁

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	11
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	11
精神	2	1	0	2		5	戦闘移動	16
社会	2	0	0			2	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識: 歴史	2		情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報: お菓子	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ベノムグレネード	射撃	3r-3				範囲攻撃。命中で邪毒ランク3付与

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
レザージャケット	4	2			

所持品	
携帯電話	

合計装甲: 2    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 古代種P		N		
前崎秀	P 執着	N 疎外感		
猫城あさひ	P 信頼	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6    残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセ: オルクス	3	2						
効果:								
蝕む赤	5	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	<RC>命中後邪毒Lv付与。							
大地の牙	1	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	<RC>攻撃力+【Lv+2】、ドッジ-1D。同エンゲージ不可。							
紅の刃	1	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果:	<RC>攻撃力+【Lv+1】							
縛鎖の空間	1	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	<RC>命中で重圧と放心。シナリオLv回。							
ブラッドコントロール	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	ブラム=ストーカーの判定ダイス+【Lv】							
ブラッドバーン	3	4	メジャー	-	-	対決	80↑	
効果:	<ジブ>攻撃力+【Lv×4】、HP-5。							
血の宴	3	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決	-	
効果:	<ジブ>範囲(選択)へ。シナリオLv回。							
完全なる世界	3	6	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果:	<ジブ>攻撃+【Lv+1】、リアクションのCL値+1							
大地の加護	5	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	<ジブ>攻撃力+【Lv×2】							
コンダクト	★	10	1	至近	単体	自動	D0イ	
効果:	未行動の他人に<ジブ>で<イ>をさせられる。シナリオ1回。							
リアレクション	3	1D10	メジャー	至近	単体	自動	D0イ	
効果:	対象の浸食率を任意で【Lv×5】以下減少。減少分上昇、1シナリオ1回							
地獄耳	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	<RC>情報取得。							

第一回セッション: ベストフレンド(仮) 獲得経験点: 34

一人称は俺様。小さいくせに生意気な態度で、いつも自身に満ち溢れているような、そんな表情をしている。「俺様が一番すごい!」曰頃そんなことをよく口に出しているものの、実際は自分が大層な人間でないことを誰よりも理解している。生意気な言動はそんな自信の無さを覆い隠すための仮面なのだ。

ジャガビーかじゃがりこかと言われたらジャガビー派。きのこかたけのこかと言われたらきのこ派。火威恭也はそういう人間である。

オーヴァードに覚醒したのはもうずいぶん昔のことで、何がきっかけだったのか覚えていない。覚えているのは確かに自分を愛してくれた両親のことくらいだ。地元で有名な音楽家だった両親は、人間としても親としても随分と立派で、才能あふれる人たちだった。そんな両親のことを恭也はとても慕っていた。それと同時に、自分では到底叶わない才能を持つ両親に嫉妬していた。

老いることのない身体を得て何年か、あるいは数十年かは一人で各地を放浪した恭也だが、やがて自分と同じ古代種である猫城あさひと出会うことになる。自分よりも優れた彼女に、かつて恋をしたこともあった。まあそれは置いて。彼女はいつも自分の一枚上手に行く。それは恭也にとってはとても屈辱的なことである。自分は優れた人間である。そう言い聞かせて、そう振舞っているけれど、実際自分は優れてなんかいないただの人間であるということを知ったのは彼女がいつもその行動で、存在で示してくるのだった。だから、恭也は何かしらあるたびに彼女につつかかる。ふたりは何かと反発しあうのである。恭也がジャガビー派であるなら、彼女はじゃがりこ派だし、恭也がきのこ派なら彼女はたけのこ派。つまりそういうことである。反発しあう二人ではあるものの、これから先、どちらか片方が息絶えるまでずっと一緒にいることになるのだろうと恭也自身は思っている。

